

令和元年度 鳥取県東部沿岸土砂管理連絡調整会議 次第

日 時 令和元年11月25日(月) 午前10時～12時00分

場 所 鳥取県庁(鳥取市東町1丁目220番地)
第2庁舎 4階 33会議室

次 第

1 あいさつ

2 議 事

(1) サンドリサイクル事業の効果検証及び課題抽出

(2) 各管理者の土砂管理への取組

- ・ 千代川流域における流砂系土砂動態の把握に関する検討
(鳥取河川国道事務所)
- ・ 岩美海岸(浦富地区)における浜崖後退抑止工(埋設護岸・サンドバック工)試験工事について
(鳥取県土整備事務所計画調査課)

(3) その他

令和元年度 鳥取県東部沿岸土砂管理連絡調整会議 出席者名簿

R1年度		役 職	氏 名	随 行 者
構 成 員	鳥取大学大学院工学研究科	教 授	黒岩 正光	
	環境省近畿地方環境事務所浦富自然保護官事務所	自然保護官	源関 絢	
	国土交通省鳥取河川国道事務所	副所長	浜田 健一	技官 植田 佳規
	鳥取海上保安署		欠席	
	鳥取市経済観光部 観光・ジオパーク推進課	参 事	米澤 裕治	
	鳥取市農林水産部林務水産課	課 長	山口 真二	
	鳥取市都市整備部都市環境課	課 長 (代 理)	長谷川 幸彦	主任 森田 浩和
	岩美町産業建設課	課長補佐	池内 克之	課長補佐 中島 伸二
	鳥取県観光交流局観光戦略課		欠席	
	鳥取県生活環境部緑豊かな自然課	課長補佐	浦田 悦雄	
	鳥取県農林水産部水産振興局水産課		欠席	
	鳥取県県土整備部空港港湾課	課長補佐	瀬村 正樹	
	鳥取県県土整備部鳥取港湾事務所	課長補佐	松本 隆	
鳥取県県土整備部鳥取県土整備事務所	計画調査課 課長補佐	大坪 亮太	計画調査課 係長 平井 康夫 河川砂防課 土木技師 田邊 大輔	

事務局

鳥取県県土整備部河川課

令和元年度 鳥取県東部沿岸土砂管理連絡調整会議 配席図

スクリーン

入口

随
行
席

入口

窓

随
行
席

側

(説明者)

(事務局)

-
-
-
-
- 鳥取県県土整備部
鳥取県土整備事務所
- 鳥取県県土整備部
鳥取港湾事務所
- 鳥取県県土整備部
空港港湾課

- 鳥取県生活環境部
緑豊かな自然課
- 岩美町産業建設課
- 鳥取市都市整備部
都市環境課
- 鳥取市農林水産部
林務水産課
- 鳥取市経済観光部
観光・ジオパーク推進課
- 環境省近畿地方環境事務所
浦富自然保護官事務所

○
鳥取大学
工学研究大学院
黒岩教授

○
国土交通省
鳥取河川国道事務所

報 道 関 係 者

平成30年度 鳥取県東部沿岸土砂管理連絡調整会議 議事概要

日 時：平成30年11月27日（火）午前10時から11時30分
場 所：鳥取県庁第2庁舎4階32会議室

1 議事

(1) サンドリサイクル事業の効果検証及び課題抽出

サンドリサイクル実施状況、評価分析、今後の方針を海岸ごとに説明。

[対象海岸：岩美海岸（陸上地区、浦富地区）、千代川右岸、千代川左岸、気高海岸]

<主な意見>

意見) 福部海岸（湯山地区）の人口リーフ西側について汀線を維持できていない。土砂が東側に行かず西側に行っているのではないかと。土砂がうまくまわっていないようなので、検討が必要である。

現対応状況：これまでの効果検証により、サンドリサイクルによる一定の効果が確認できているが、今後も対策について検討していく必要がある。現在、鳥取県土整備事務所が福部海岸（湯山地区）の効果検証を引き続き実施しているところであり、その結果をもとに今後の当会議で議論していきたい。

(2) 各管理者の土砂管理への取組

■ 千代川流砂系の改善に向けた検討（土砂動態検討）（鳥取河川国道事務所）

- ・現時点では資料整理中であり、結果を示せるような内容はない。H30は現状把握（測量、粒度分布、植生調査など）を行う。R1～R2でシミュレーションとモニタリングを行い、どこで洗掘してどこに堆積するのか検証する予定である。
 - ・中流域にて河床掘削しているが、粒径は大きい。掘削した土砂は備蓄土砂として仮置きしたり、他工事へ流用している。
 - ・河川内に置き土としフラッシュさせることも考えられるが、取水堰の管理の問題があるため、管理者と調整しながら進めていきたい。
- <主な意見>
- ・系外へ搬出せずに海へ流してほしい。日野川では河川内に置き土し、土砂の供給源としている
 - ・現在、海岸の土砂収支を作成したいと考えている。今後の検討課題としたい。

■ 浦富海岸における鳥取方式のサンドリサイクル工法に関する試験施工について

（砂除去装置を用いたサンドリサイクル工法）の取組状況について（鳥取港湾事務所）

- ・9月～10月にかけて試験施工を実施し、これまでサンドポンプ1台で排砂をしていたところ、今回は中継ポンプを1台設けての長距離圧送を確認できた。
 - ・粒径は概ね0.22mmであった。（由良川は0.44mm）
- <主な意見>
- ・今までの試験施工でさまざまな粒径の砂でのデータが蓄積されてきたので、粒径の閾値を検証するなど、次のステップへ進むべきと考える。また、どういうところで適用するのかを検討していくためにも、今後有用に使えるデータとして整理するべきと考える。